

今日は、まず運動会についてお話をしたいと思えます。

皆さんは、運動会の季節といういつ頃を思い浮かべるでしょうか。私の場合は、やはり秋晴れの爽やかな季節なのであります。夏のうだるような暑さは、もうありません。やかましいセミの声も、もうその頃には全く聞こえないのであります。その代わりに、何とも涼しげな虫の音が聞こえてくる季節であります。

ところが、最近は春や初夏に運動会が行われているところもあるとお聞きしました。様々な事情からそのような形になっているようでもあります。確かに、気候としてはその頃もいいでしょう。

しかし、子供の頃からずっと運動会は秋だった私としては、少し違和感があるのであります。皆さんにとっての運動会とはいつ頃でありましょうか。

次にお話ししたいことは、歌についてであります。

歌と申しましても、短歌などとは違ひまして、テレビやラジオなどでおなじみの歌謡曲についての話であります。

歌というものはとても不思議なものであると、皆さんはお思いになりませんか。同じメロディーでありましても、また、同じ歌詞でありましても、その伝わり方は人によって大きく異なるのであります。一般的に明るいかと思われているものでありましても、聴く人によっては悲しい歌に聞こえることもあります。

私は専門家ではないので、その理由は分かりません。しかし、暗く沈んでいた気分が、ある音楽を聴いたことよって一変するということもあるわけがあります。そういう意味で、歌は本当に不思議な力を持っているのであります。

(了)

## 空読み用

(5級・3級)

今日は、まず皆さんに一つ質問をしてみましたと思います。小学生の頃の一番の思い出というのは何でしょうか。人によっていろいろな答え<sup>㊦</sup>があるのではないかと思います。

私の場合は、六年生のときの運動会であります。私は、それまで徒競走で一度も勝ったことがありませんでした<sup>㊦</sup>。ですから、最後までいはどうしても一番になりたいと思っていたのであります。そのために、毎日走る練習を繰り返しました。しかしながら、本番ではいい結果を出せなかつたのであります。

そのような悔しい思い出というものは、何年たつても、忘れることができないものであります<sup>㊦</sup>。